

RACE REPORT




 Round.03 **AUTOPOLIS**
第3戦 オートポリス

2026年4月25日(土)

予選

天候：晴れ／曇り 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選 5番手

#39 大湯 都史樹

予選 11番手

2026年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、モビリティリゾートもてぎで行われた第1大会から3週間のインターバルで、第2大会を迎えた。舞台は大分県のオートポリス。アップダウンに富んだコースでタイヤにも厳しく、変わりやすい天候が特徴のサーキットだ。

そんなオートポリスでの一戦は、土曜に予選、日曜に決勝が行われる1大会1レース制。第1大会では日曜の第2戦で予選から速さをみせた SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は、上位グリッドを獲得するべく、4月25日(土)の予選日に臨んだ。

PRACTICE フリー走行

 4月25日(土) 9:15~11:10 天候：晴れ 路面：ドライ
 ベストタイム #38 阪口晴南 1'27.019 / #39 大湯都史樹 1'27.560

迎えた4月25日(土)のオートポリスは、朝から雲が多いものの晴天に恵まれた。ただ、前日は午後から雨が降っており、路面には各所に濡れた部分が残っている状況。午前9時15分から始まったフリー走行は、気温15度／路面温度19度というコンディションのもと始まった。

開始後すぐにスピン車両があり赤旗が出るなど、滑りやすい路面状況で序盤のセッションは進んでいたが、阪口晴南、大湯都史樹ともピットアウト～インを繰り返しながら午後の公式予選に向けてセットアップを進めていった。

途中、路面は完全にドライに転じたものの、開始から1時間というところで再度ストップ車両が発生するなどこのフリー走行では2回の中断があった。そんななか阪口、大湯とも5回ずつのピットでの作業を経て、午前10時45分からふたつのグループに分けての専有走行に臨んだ。

まずA組に出走したのは阪口。ここでチェッカー一周に1分27秒019を記録し、まずはA組の2番手につけ、総合でも3番手となる好位置につけた。

「走り出しからすごく調子良かったですね。常にタイミングモニターの上位につけることができていました」と阪口も笑顔を見せた。

午前11時05分から行われたB組には大湯が出走したが、ここで1分27秒560を記録。総合6番手タイムで、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は総合で阪口が3番手、大湯が6番手と、上位でセッションを終えたが、大湯の表情は 順位の割にいまひとつだった。「コースインした瞬間から嫌な感触があったくらいです。アタックしてみても、『これは厳しそうだな』という感じでした。ベースから厳しい印象でしたね」と大湯。午後の公式予選に向け、トライできることに取り組んでいった。



QUALIFY 公式予選

4月25日(土) 14:15~15:28 天候:曇り 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'26.498 / #39 大湯都史樹 1'27.163

このQ2はトップ10が0.5秒差に入る超僅差の争いとなったが、ここで1分26秒563というタイムを記録したのは阪口。3番手に飛び込み、見事Q3進出を果たしてみせた。一方、大湯は1分27秒163を記録するも11番手。不調が響き、Q2で公式予選を終えることになった。

さらに10分間のインターバルを経て迎えたQ3は、5台のみがアタックを展開するセッション。午後3時21分に始まったQ3で、阪口は真っ先にコースインすると、ポールポジションを賭けた緊迫感あふ

午前に行われたフリー走行の後オートポリスは晴天が続いていたが、昼過ぎからやや雲が広がり、午後2時15分に始まった公式予選は曇り空のもと始まった。今回は1大会1レース制だが、ひさびさにノックアウト形式の予選はQ3まで設定されており、ポールポジションを獲得すると、シリーズのタイヤサプライヤーである横浜ゴムから、なんと賞金100万円が授与されるものとなった。

そんな公式予選のQ1は、気温20度/路面温度32度というコンディションのもと始まり、まずはA組に阪口が出走した。一度ピットに戻りタイヤを交換した後、阪口はアタックラップに入っていくと、1分27秒445というタイムを記録。3番手でQ2進出を果たした。

ただ、阪口にとっては午前中の好印象からはやや雰囲気が変わっていた。フリー走行から公式予選までの間に別カテゴリーの走行があり、その影響で路面が繊細に変化していたことが原因だった。

午後2時30分にスタートしたB組に出走したのは大湯。こちら一度コースインしていくが、1コーナー立ち上がりでクラッシュ車両が発生し、セッションは一時赤旗中断となった。再開後、大湯は再度タイヤを温めアタックラップに入っていくと、1分27秒446というタイムを記録。フリー走行ではいまひとつな表情を浮かべていたが、予選までに調整できる部分をアジャストし、「雰囲気を変えていきましたが、根本のパフォーマンスが足りない」という状況ながらも5番手につけ、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは2台が揃ってQ2進出を果たした。

10分間のインターバルを経て迎えたQ2。阪口、大湯ともに一度ピットアウト～インを行い、ふたたびコースイン。ウォームアップを行っていった。

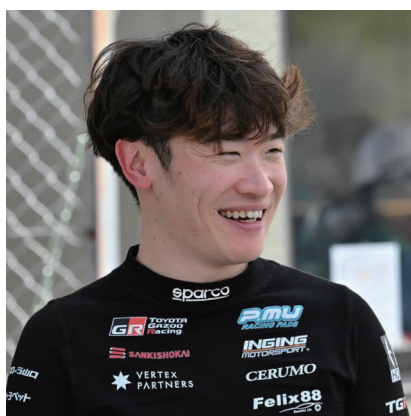
れる中でアタックを展開していった。ここで阪口は1分26秒498を記録するも、路面の変化に対しわずかに伸びを欠き、結果は5番手となった。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは阪口が5番手、大湯が11番手という予選結果となった。ただ決して上位を狙えないグリッドではない。チームは荒天の予報がある決勝にしっかり対応するべく、準備を進める。



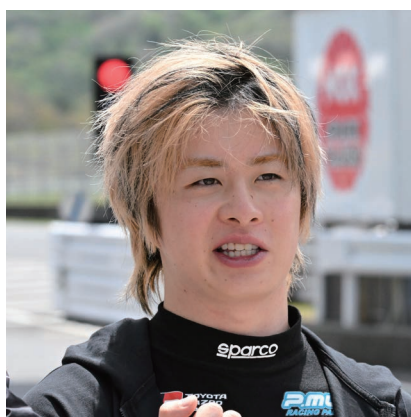
COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「フリー走行から調子が良く、予選ではQ1は通るだろうと思っていました。ただ、サポートレースの影響か予選ではコンディションの変化に驚きました。そんな中でもQ1を通ることができましたし、Q2でも自信をもってアタックすることができました。ただQ3ではタイムの上がり代が悩ましいところだったと思いますが、うまく対処しることができませんでした。チームとして、ベースのパフォーマンスが上がったことは喜ばしいですが、最後は上げきれませんでしたね。とはいえ第2戦に続いて5番手につけられたので良い予選日になりましたし、レースペースは良さを引き出せているので、精度の高い戦略を立て、表彰台を狙うレースにできればと思います」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「朝のフリー走行の走り始めから嫌な感触がありましたし、セッションを進めながらも結果的にその感触は良くなる感じはありませんでした。午後の予選までに雰囲気を変えて臨んだのですが、悪くはないもののベースとして1~2秒遅かったものが、コンマ1~2秒変わったくらいで、パフォーマンスが足りない状況は変わりませんでしたね。自分の中では糸口が見えておらず、レースでも不安がある状況です。中団の混戦の中で前をかき分けていかなければならないですからね。また決勝は雨の天気予報も出ていますが、ちゃんとレースができることを願うばかりですね。今回は問題を抱えていますが、今後に向けての材料を残すためにも明日しっかり走りきりたいです」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「阪口選手は今回も好調をキープできていて、公式予選でもQ3まで繋げてくれました。ポールポジションを狙うチャレンジをQ3でもしてくれたのですが、それがうまくいきませんでしたね。ただ、挑戦した結果なので仕方ないと思います。5番手からなのでさらに前を目指せる位置だと思います。連続表彰台、さらに優勝を目指してほしいですね。大湯選手については、午前からセットアップを詰めきれておらず、Q2でタイムを上げることができませんでした。ちょっと苦しんでしまっていますが明日は天気予報だと雨の可能性があり、状況はまた変わると思うので、大湯選手もチャンスがあると思います。しっかり変化に対応して上位を目指したいですね」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第3戦オートポリス 予選結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Q1	Q2	Q3
1	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'26.524	1'26.419	1'25.866
2	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'26.680	1'26.583	1'26.139
3	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'27.388	1'26.519	1'26.144
4	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'26.708	1'26.565	1'26.211
5	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.445	1'26.563	1'26.498
6	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.384	1'26.664	
7	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'27.582	1'26.683	
8	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'27.591	1'26.698	
9	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'26.922	1'26.803	
10	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.722	1'26.827	
11	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.446	1'27.163	
12	97	R. スタネック	北ノ珈 Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.466	1'27.366	
13	19	Z. オサリバン	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.581		
14	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.756		
15	9	野中誠太	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.796		
16	28	小林利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.773		
17	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.798		
18	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'27.823		
19	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.923		
20	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'27.866		
21	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'28.608		
22	53	C. プルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'28.521		
23	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'28.565		
				以上予選通過			
	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E			